

28日 火曜

I サムエル



29:1 ペリシテ人は全軍をアフЕКに集結し、イスラエル人はイズレエルにある泉のほとりに陣を敷いた。

29:2 ペリシテ人の領主たちは、百人隊、千人隊を率いて進み、ダビデとその部下は、アキシュと一緒にその後続に続いた。

29:3 ペリシテ人の首長たちは言った。「このヘブル人たちは、いったい何なのですか。」アキシュはペリシテ人の首長たちに言った。「確かにこれは、イスラエルの王サウルの家来ダビデであるが、この一、二年、私のところにいる。私のところに落ちのびて来てから今日まで、私は彼に何の過ちも見出してない。」

29:4 ペリシテ人の首長たちはアキシュに対して腹を立てた。ペリシテ人の首長たちは彼に言った。「この男を帰らせてほしい。あなたが指定した場所に帰り、私たちと一緒に戦いに行かせないでほしい。戦いの最中に、われわれに敵対する者となってはいけない。この男は、どのようにして自分の主君の好意を得るだろうか。ここににいる人たちの首を使わないだろうか。」

29:5 この男は、皆が踊りながら、『サウルは千を討ち、ダビデは万を討った』と歌っていたダビデではないか。」

29:6 そこでアキシュはダビデを呼んで言った。「【主】は生きておられる。あなたは真つ直ぐな人だ。あなたには陣営で、私と行動をともしてもらいたかった。あなたが私のところに来てから今日まで、あなたには何の悪いところも見つけなかったからだ。しかし、あの領主たちは、あなたを良いと思っていない。

29:7 だから今、穏やかに帰ってくれ。ペリシテ人の領主たちが気に入らないことはしないでくれ。」

29:8 ダビデはアキシュに言った。「私が何をしたのですか。あなたに仕えた日から今日まで、しもべに何か過ちでも見出されたのですか。わが君、王様の敵と戦うために私が出陣できないとは。」

29:9 アキシュはダビデに答えて言った。「私は、あなたが神の使いのように正しいということをよく知っている。だが、ペリシテ人の首長たちが『彼はわれわれと一緒に戦いに行ってはならない』と言ったのだ。

29:10 さあ、一緒に来た自分の主君の家来たちと、明日の朝早く起きなさい。朝早く、明るくなり次第出発しなさい。」

29:11 ダビデとその部下は、翌朝早く、ペリシテ人の地へ帰って行った。ペリシテ人はイズレエルへ上って行った。

とうとうダビデは同胞であるイスラエルと戦わなければならなくなりました。彼は苦しんだと思われれます。しかし神は哀れみ深い方であって、ダビデは帰ることになり、戦わないですみました。

主の守りがなければダビデであってはどうなっていたか分かりません。この場合、ただ戦わなくて済んで良かったと終わらせてしまうこともできません。また主の不思議な守りと導きがあったと悟ることもできます。

私たちは主の哀れみを思い起こし、感謝し、主が守ってくださったから今日があると謙遜でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

